

## 上田市ごみ処理基本計画（素案）に対するパブリックコメント実施結果

上田市で策定を進めている「上田市ごみ処理基本計画」について、上田市廃棄物処理審議会で素案がまとまりましたので、内容を公表するとともに、市民の皆さんからの意見を募集しました。

- 募集期間 平成 29 年 12 月 25 日（月）から平成 30 年 1 月 12 日（金）まで（必着）
- 公表場所 市ホームページ、市役所本庁舎 1 階行政資料コーナー、  
廃棄物対策課・ごみ減量企画室（上田クリーンセンター内）、  
丸子・真田・武石市民サービス課
- 対象 市内在住、または通勤・通学している方
- 提出方法 公表場所、または市ホームページにある「ご意見記入用紙」に、住所・氏名・電話番号・FAX 番号を記入の上、次のいずれかの方法で提出。  
①郵送（〒386-0025 上田市天神三丁目 11 番 31 号 ごみ減量企画室宛）  
②FAX（0268-26-0815）  
③メール（genryo@city.ueda.nagano.jp）  
④ごみ減量企画室窓口に持参（電話不可）
- 意見の公表 提出された意見を整理・要約し、意見に対する考え方を含め市ホームページ等に公表（個人情報公表しません）。
- 募集結果
  - ・意見提出者 4 名（18 件）
  - ・提出方法別人数

郵送	FAX	電子メール	窓口	計
1		2	1	4

No	ページ	意見・提案等概要	意見に対する考え方
第 2 章 ごみ処理の現状と課題について			
1	6 14 19	「資源物」の定義について。H19 年のごみ処理統一時に、答申により資源物の内容が定義されていたはず。上田市の資源物の定義を変更するなら、そのことを明記すべき。P6 の枠内に記載の「資源物⇒・・・プラマーク付きプラスチックごみ、剪定枝木を含む場合がある」の表現は余計に混乱する。含む場合、含まない場合とは何か。	本市の「資源物」区分は 7 ページの表 2 のとおりですが、第 2 章において示すごみ処理の実績では、「一般廃棄物処理事業実態調査」における区分に従っているため、資源物にプラマーク付きプラスチック、剪定枝木を含む記載としております。 ご意見を受け、6 ページ枠内、19 ページの記載の変更及び 14 ページへ注釈を追記いたします。
2	20	ごみ処理費用に関して、「・・・ごみ処理事業費が、民間委託などを背景に増加しています。」の記載がわかりづらい。どういう背景が事業費を押し上げているのか。民間委託は合併前から実施されていたし、直営が安価とも思えない。	記載の内容について、「近年のごみ処理費用の増加については、最終処分場に埋め立てていた焼却灰の一部を民間業者への委託によりリサイクル処理していますが、年々リサイクル率を上げてきていることによって業務委託費が増加していることや、老朽化が進むクリーンセンターの修繕に伴う広域連合への負担金増加などの要因が挙げられます。」と修正いたします。

No	ページ	意見・提案等概要	意見に対する考え方
3	20	ごみ処理費用の決算書等用途を理解できる数値が示された資料がない。	過去 10 年間のごみ処理費用を記載しておりますが、主な用途がわかりやすいように説明内容を修正いたします。
4	21	資源物回収が定着していると記載されている。その上で、資源物回収促進交付金はいつまで継続するのか。資源回収の導入時にこそ効果的なこの交付金が、自治会の貴重な収入源だから継続するというのはおかしい。公平感が乏しい。 同じく P21 には、発生抑制(リデュース)をより一層進めることが謳われている。より資源物を発生させたことに対して、資源物の回収量に対して出す交付金は資源回収が定着した現在においては発生抑制の理念に逆行する。継続する際には、排出量に応じて出すのではなく、人口などの明確な基準により拠出すべきと思う。正確な回収量の把握は作業効率上きわめて困難であり、回収業者の目分量に頼らざるを得ないのだから。	自治会における資源物回収は、自治会長をはじめとした役員の方々のご協力により、定着してまいりました。 また週末の店舗におけるウィークエンドリサイクルも市民の皆様にも浸透してきていると感じております。 今後、市としましては、リデュース・リユースを積極的に推進していく施策が必要であると考えますが、資源物がごみとして排出されている現状から、引き続き資源物回収も、一つの重要な取組として推進してまいります。 交付金につきましては、ご意見としてお聞きし、今後の施策の参考にさせていただきます。
5	22	情報発信や啓発について推進する旨の記載がある。容リプラ(緑色袋)とその他プラ(赤色袋)の処理料(kgあたり市負担額など)を公表してはどうか。分別の徹底と、容リプラをきれいにして出す必要性の理解につながるのではないかな。	ごみ処理の現状をわかりやすく伝えることは大切なことと考えております。 ご意見を参考に、分別意識の高揚につながる情報発信、啓発に努めてまいります。
6	23	上田市不燃物処理資源化施設は将来的には廃止して、民間への委託にすべきではないか。既に一部の地域では委託されている実績もある。この施設は、近い将来、建て替え等の市の負担が予想される。民間にできることは民間に任せて、余計な支出をしないことが肝要ではないかな。	上田市不燃物処理資源化施設につきましては、上田地域広域連合の方針に基づき、統合クリーンセンターに併設せず、民間活力を活用しながら、施設の分散化に向けた具体的な検討・調整する旨を追記いたします。
7	24	トピックス①として、高齢者のごみ出しの課題に触れている。全国の多くの自治体では「ふれあい収集」などの名目で既に実現例が多い。しっかりとした廃棄物行政の課題として、福祉行政とのコラボによる実現を、明確な課題として掲げてほしいと思う。トピックスとしての挿入は、あたかもそれが福祉行政(高齢者問題)が主管で、廃棄物行政が主管でないような転嫁のニュアンスを感じてしまう。 また、この問題は共助ではなく、公助で行うべきではないか。資源物回収の売却益を自治会へ配分するのをやめ、こういった事案に使うのなら、すぐにでも実現が可能であると思う。	ごみ問題も含め、高齢者等への支援や対応策は廃棄物や福祉といった行政部門だけに止まらず、まちづくりの観点から臨むべき重要な課題であると認識しております。トピックスでは、現状を広く知ってもらうための方法の一つとしてごみの排出困難世帯について取り上げたもので、46 ページの目標達成のための施策で収集体系の検討を明記しております。 市では、「地域内分権」と「参加と協働」の基本理念による市民を主役にしたまちづくりを進めております。行政はまちづくりを進める力となる市民力・地域力を引き出すための環境づくりを担っております。人口急減と超高齢社会の到来により社会の姿が大きく変貌しようとしている今、「公」の担い手は行政だけではなく、多様な主体との連携や協働によって持続的に成り立つものと考えており

No	ページ	意見・提案等概要	意見に対する考え方
			<p>ます。高齢者等のごみ出し困難世帯への自治体の対応には、行政主体や地域主体又は地域を行政が支援するなど、様々な取組があります。まさに地域特性に応じた取組であり、それ故に共助や公助の役割や範囲について各主体が共通の認識を持つことが大事です。ご意見や先進事例も参考に、持続可能な地域の在り方も見据えながら、各主体との連携による有効な手段を講じることができるよう検討してまいります。</p>
第4章 計画目標値の設定について			
8	33	<p>ごみ減量化のための目標値を掲げているが、どうすれば減量できるのか説明がない。</p>	<p>目標値は、過去10年間のごみ処理量の実績に基づき、将来における推計値を算定したうえで設定しております。この目標値を達成するため、市民・事業者・行政がそれぞれの役割に応じた取組を個別施策にまとめ、ごみの減量・再資源化を推進することとしております。</p>
9	38	<p>不燃物排出量の記載について、「排出段階での再生ルートはないものの」の表記があるがわかりづらい。金属類には再生ルートがあるはず。</p> <p>収集コスト削減の観点から収集頻度の調整は賛成。「温室効果ガスの削減の観点から・・・」との表記があるが、これは収集車の頻度が減るからの意味か。</p>	<p>ご指摘の表記を削除したうえで、不燃ごみは、不燃物処理資源化施設で人の手による選別を経て、再資源化されている旨を追記し記載を見直します。</p> <p>温室効果ガス削減の観点につきましては、お見込みのとおりでございます。</p>
10	38	<p>容器包装プラスチックごみ排出量の箇所の記載が気になる。「食品トレー」を分別するとあるが必要とは思えない。現行の容器包装ごみの処理でいいのではないか。分別の手間が増えるだけで、コスト的には変わらないと思う。容器包装は製造業者がリサイクル料金を負担しているのではないか。店舗回収を推進しようとするのもどういふものなのか。緑色袋の収集量は減っても、その分店舗分が増えるだけで、本来のごみ減量化とは言えない。そもそも、ごみ処理の統一時、トレーを分別していた地域(丸子)もあったが、容器包装で処理可能ということで止めさせた経過もある。</p>	<p>「混入するペットボトルや食品トレーを分別しリサイクルルートに」の部分につきましては、食品トレーの記載を削除いたします。</p> <p>ただし、店頭回収につきましては、事業者の環境に対する取組姿勢を表すもので、自主的・主体的に行われており、スーパーと消費者との容器包装削減の積み重ねた話し合いにおいて、スーパーは容器包装の削減は難しいとしながらも、排出者責任を果たすため店頭回収の実施に至った経過があります。店頭回収した食品トレーは、トレーメーカーが構築したネットワークによって処理され、再びトレーとして生み出されています。この「トレーからトレーへ」という再生の循環は、環境負荷低減の観点から「良いリサイクル」といえます。一方、容器包装プラスチックごみとして処理する市のルートは、パレットやプラスチック原料などに再生されますが、係るエネルギー消費も大きく、さらに市も一定の費用負担が生じます。食品トレーを容器包装プラスチックごみとして収集していますが、目指すのはトレーの使用削減とともに、環境にやさしいより良いリサイクルへの誘導・誘発にあります。こうした実態を市民に周知啓発し、食品トレーの店頭回収を推奨していく必要があると考えております。</p>

No	ページ	意見・提案等概要	意見に対する考え方
11	38	リサイクルの促進では、スーパーで回収されるペットボトル、食品トレー、牛乳パックがどのように処理されているか説明がなく、具体的に「なにを、どうすれば、このように、いくらになる」と明記する必要がある。	スーパーなどの店舗で回収しているペットボトルは、市が収集から処理まで行っているため回収量や再資源化の状況を把握しており、その処理フローを12ページに示しております。一方、食品トレーや紙パック類等につきましては各店舗において自主的・主体的に取り組んでいるもので、市において処理量等を把握しておりません。
第5章 目標達成のための施策について			
12	42	やはり生ごみ減量化は結論的には、ある程度の「堆肥化施設」を建設して減らさざるを得ないということです。良い堆肥を作ることは個々では難しく専門技術が必要です。上田市の人口が16万人、一か所では無理ですし、市街地もまず大変でしょう。まずは農村部の多い旧町村部（塩田、丸子、真田、武石）の一か所でモデル地区を選び、はじめてみたらどうでしょうか。廃棄物から資源として有効活用が出来たならば、農業が変わり、地球環境が変わり、地域が元気になると私は信じます。	生ごみの処理につきましては、ごみから資源としてどのように活かすことができるか、生ごみのリサイクルシステムづくりについて研究してまいります。いただいたご意見は、今後の取組を進める上での参考とさせていただきます。
13	43	古着回収に関して、上田地域以外の回収体制を早期に構築してほしい。手っ取り早く、まずはウィークエンドリサイクルでの回収を試行してほしい。	H28から武石地域、H29には丸子地域でも回収を実施いたしました。今後、事業主体の在り方や回収の方法等について検討してまいります。
その他の項目について			
14	—	3か月前に他県から引っ越してきました。金属ごみは燃えないごみとしてだしていますが、埋め立てているのでしょうか？以前の所では資源ごみでした。再利用しないともったいないように思いますが、いかがでしょうか。	燃やせないごみとして集積所に出された金属類は、収集後に不燃物処理資源化施設で手選別により、鉄、非鉄、小型家電などに分別され、各処理業者へ搬入して資源化されております。
15	—	ごみの収集時間は決まっていないのでしょうか？ねこなどが荒らしていることがあります。決まった時間に集めた方がよいと思います。	ごみ集積所ごとの収集時間は決まっておりません。収集ルートにより順次収集いたします。当日の収集量や交通状況により収集時間は変わりますので、ごみは当日の朝8時30分まで（塩田・川西地区は朝8時まで、菅平地区は別途指定）に出していただきますようお願いしております。
16	—	「小さな紙類回収袋」「生ごみ出しません袋」の効果検証はしないのか。回収量（袋数）のデータは公表しないのか。	雑がみ回収袋は既に配布を終了しておりますが、生ごみ出しません袋の配布とともに、ごみの減量・再資源化へのインセンティブとして、意識の高揚につながっていると捉えております。 これらの施策の効果等につきましては、計画の進行管理の中で評価・検証を行った上で公表したいと考えております。

No	ページ	意見・提案等概要	意見に対する考え方
17	—	資源循環型施設の建設に関する市民の同意を得るための説明資料がない。	本計画は、市のごみ処理について基本的な方針や取組の方向性を示すものであります。資源循環型施設の建設にあたりましては、上田地域広域連合のごみ処理広域化計画に即し、上田市の取組を示しております。
18	—	ごみ減量化のための具体的な方策として、生ごみと可燃ごみの分別収集が必要。生ごみは簡単乾燥し動物の飼料とすること。可燃ごみは発電燃料とすること。	生ごみを資源としてどのように活かすことができるか、効果やコスト、ニーズなどを総合的に勘案しながらリサイクルのシステムづくりについて研究してまいります。資源循環型施設では、高効率の発電施設によりごみをエネルギーとして再生し、施設内で利用して運営経費の縮減を図ることも計画しております。いただいたご意見は、今後の取組を進める上での参考とさせていただきます。